

観光ビジネス学科 シラバスの変更一覧

学年	頁	開講科目
1年	10	日本語表現法
1年	11	英語 I
1年	15	情報処理
1年	18	マーケティング
1年	19	観光概論
1年	20	観光ビジネス論
1年	32	旅行業法
1年	33	旅行業約款
1年	34	国内運賃・旅費計算 I
1年	36	国内観光地理 I
1年	39	観光英語
1年	47	基礎ゼミ
2年	60	東北学
2年	61	歴史と文化
2年	62	暮らしの中の法律
2年	63	現代の社会
2年	69	旅と文学
2年	71	国内観光地理 II
2年	78	おもてなし英語
2年	79	観光英語ガイド基礎
2年	82	総合演習 II
2年	86	総合演習 II

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●		●	●	

科目ナンバリング
CO-0-HCU-01

科目名	日本語表現法				単位 認定者	徳田 幸雄		評価の 方法	授業内課題 (チェックテスト)	100 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業時間数	30 時間	授業回数
						授業形態	講義				
授業の概要	書き言葉と話し言葉における日本語運用の基本を学び、論理的なコミュニケーションの手段である言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。まず日本語の特徴的な知識について学び、日本語運用の基本を身に付ける。その上で、書き言葉・話し言葉等の様々な表現行為に触れ、自らも表現し、相手に伝わる表現について実践的理解を深める。具体的な場面での適切な表現方法を実際に考えることで、大学や社会で必要となる日本語表現の様々なスキルを獲得することを目指す。										
到達目標	日常生活において、適切な言葉で表現・伝達できる力を身につける。 ・相手が発するメッセージを受け止めながら、場面に応じた会話ができるようになる。 ・目的に合わせた文章（文書）作成ができるようになる。										
学修者への期待等	日本語を知ることとは日本文化を知ることでもある。社会人のための教養という面だけではなく、自らの文化を再認識・再評価し、さらには自身のルーツを見つめ直す機会としてもらいたい。										
回	授業計画					準備学修					
1	ガイダンス 世界から見た日本語の特徴					日本語と英語との相違を考えてみよう。(10分程度)					
2	日本語の歴史					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)					
3	ことばと表現①(熟語、語句)					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)					
4	ことばと表現②(ことわざ、故事成語)					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)					
5	敬語表現①(敬語の基本)					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)					
6	敬語表現②(尊敬語と謙譲語)					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)					
7	修飾語と被修飾語との関係①名詞、動詞、述語										
8	修飾語と被修飾語との関係②生身のアイドルが完全に職を奪われる日										
9	句読点の打ち方					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)					
10	テンの練習・河北春秋①読書週間					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)					
11	テンの練習・河北春秋②ひきこもり					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)					
12	テンの練習・河北春秋③児童虐待					前回のチェック・テストの復習。(10分程度)					
13	テンの練習・河北春秋④高齢ドライバー										
14	テンの練習・河北春秋⑤100の診療所よりも1本の水路が必要										
15	文章の構成										
教科書	プリントを配布する。										
参考文献	「日本語の作文技術(朝日文庫)」本多勝一著(朝日新聞出版) 「大学生のための日本語表現実践ノート」米田明美他著(風間書房)										
備考	進捗状況や理解度に応じ、順序や内容を変更する場合がある。										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-02				
	●									
科目名	英語 I				単位認定者	吉野 千乃		試験(レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	演習	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	日常会話で頻繁に用いられる基本表現を「話し」・「聞く」ことができる力を養い、基礎的な英語コミュニケーション能力を修得する。また、当該専門職として必要となる語彙や基本表現も身につける。									
到達目標	世界遺産に関する文章の読解と視聴を通して、基本的な英語を聴く、話すことができるようになる。観光に関する英語表現についても学び、希望の進路を実現するための力を身につける。									
学修者への期待等	授業にはテキスト、辞書を持参すること。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業の進め方について/予習・復習の方法/アクション・ペーパーの書き方									
2	Unit 1 Statue of Liberty, USA テキスト内容理解と英語文章作成				事前にUnit 1に目を通し、p.9のGeneral Questionsの解答を英語で作成しておく。(1時間程度)					
3	Unit 2 Forbidden City, China テキスト内容理解と英語文章作成				事前にUnit 2に目を通し、p.15のGeneral Questionsの解答を英語で作成しておく。(1時間程度)					
4	Unit 3 Bath, England テキスト内容理解と英語文章作成				事前にUnit 3に目を通し、p. 21のGeneral Questionsの解答を英語で作成しておく。(1時間程度)					
5	Unit 4 Canadian Rockies, Canada テキスト内容理解と英語文章作成				事前にUnit 4に目を通し、p.27のGeneral Questionsの解答を英語で作成しておく。(1時間程度)					
6	Unit 5 The Pyramids, Egypt テキスト内容理解と英語文章作成				事前にUnit 5に目を通し、p.33のGeneral Questionsの解答を英語で作成しておく。(1時間程度)					
7	Unit 6 Ayutthaya, Thailand 課題① Unit 1-5 のまとめ:世界遺産を紹介する				Unit1-5で学んだ世界遺産について、英語で情報を収集しておく。(1時間程度)					
8	Unit 7 Edinburgh Castle, Scotland テキスト内容理解と英語文章作成				事前にUnit 7に目を通し、p.45のGeneral Questionsの解答を英語で作成しておく。(1時間程度)					
9	Unit 8 Machu Picchu, Peru テキスト内容理解と英語文章作成				事前にUnit 8に目を通し、p.51のGeneral Questionsの解答を英語で作成しておく。(1時間程度)					
10	Unit 9 Taj Mahal, India テキスト内容理解と英語文章作成				事前にUnit 9に目を通し、p.57のGeneral Questionsの解答を英語で作成しておく。(1時間程度)					
11	Unit 10 Te Wahipounamu, New Zealand テキスト内容理解と英語文章作成				事前にUnit 10に目を通し、p.63のGeneral Questionsの解答を英語で作成しておく。(1時間程度)					
12	Unit 11 Shirakawa-go, Japan テキスト内容理解と英語文章作成				事前にUnit 11に目を通し、p.69のGeneral Questionsの解答を英語で作成しておく。(1時間程度)					
13	Unit 12 Cappadocia, Turkey テキスト内容理解と英語文章作成				事前にUnit 12に目を通し、p.75のGeneral Questionsの解答を英語で作成しておく。(1時間程度)					
14	Unit 13 Blue Mountains, Australia テキスト内容理解と英語文章作成				事前にUnit 13に目を通し、p.81のGeneral Questionsの解答を英語で作成しておく。(1時間程度)					
15	Unit 14 Persepolis, Iran テキスト内容理解と英語文章作成				事前にUnit 13に目を通し、p.87のGeneral Questionsの解答を英語で作成しておく。(1時間程度)					
教科書	Someya, M. & Ferrasci, F.(2010). <i>World Heritage on DVD</i> . (『DVDで学ぶ世界遺産』)Nan'un-do.									
参考文献	資料は随時LMSより配信する。									
備考	授業で使用した資料等はLMS内に保存していくので、復習に活用すること。 履修者の状況によって進度や順番に変更が生じる場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSC-01				
	●	●		●						
科目名	情報処理				単位認定者	氏家 留美子		試験(筆記)	50%	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1単位	評価の方法	授業内課題	20%
						授業時間数	30時間		受講態度	30%
				授業形態	演習	授業回数	15回			
授業の概要	現代のコミュニケーションツールとして重要な位置を占めるパソコンを用いて、文書作成やデータ処理など情報伝達・発信方法の基礎を学ぶ。加えて、パソコンをコミュニケーションツール、ビジネスツールとして活用する能力を養う。また、パソコンを使う者のマナー、情報保護の意識等も学習する。									
到達目標	<p>パソコンの基本操作を修得し、業務内でWord・Excel・PowerPointが効率的に使用出来ることを目標とする。</p> <p>◆Word：書式設定や印刷設定を適切に使える。表・図形・写真を取り入れた表現力のある文書を作成できる。</p> <p>◆Excel：書式設定をして表を整えることができる。適切な計算式や関数を使う。グラフを作成できる。</p> <p>◆PowerPoint：プレゼンテーションについて理解し、訴求力のあるスライド作成とスライドショー実施ができる。</p>									
学修者への期待等	<p>パソコンの基本操作から行う。操作が苦手な者は、これを機に操作が出来るようにすること。操作が出来る者であっても自己流の操作を行うことが多いので、初心に戻り取り組み、自分にとって不足しているスキルはより向上するよう学修すること。</p> <p>授業を休むと操作がわからなくなり、次回以降の授業にも影響するため注意すること。操作がわからない部分はそのままにせず、演習中に巡回をするので質問をして確認すること。</p> <p>各自が作成したデータを保存するためのUSBメモリを準備すること。(他の科目と共用可)</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	基礎知識：Windowsの基本操作 Word：入力方法・ビジネス文書入力・保存・書式設定				<p>【予習について】 マウス操作・入力操作は各自できるようにして授業に臨むこと。特に入力操作が苦手な場合は、タイピングの練習をして技術を向上させること。(30分程度)</p> <p>【復習について】 Word・Excelは、はじめは基礎内容から入り、段階的に応用内容に進んでいくため、各回の内容をしっかりと身につけ、次の授業へ臨むこと。 授業内に完成しなかった作成物は、次回までに完成しておくこと。</p> <p>これまでの経験によって、パソコンスキル(技能)は各人で異なるため、自分の現在のスキルを把握し、学修したパソコン操作が身につけていないと感じる場合は、授業で作成したものを繰り返し操作して復習すること。(各自のスキルにより30分～1時間程度)</p>					
2	情報保護：情報セキュリティに関する知識 Word：文書の書式設定・印刷設定									
3	Word：表を取り入れた文書の作成									
4	Word：段落の網かけ・均等割り付け・ルビ・囲い文字・傍点・段組み・ヘッダーフッター									
5	Word：イラスト・写真・ワードアート・図形描画									
6	試験(筆記) 1回目(Word・セキュリティ関連) Word：レポートなどの長文作成時の効率的な機能									
7	PowerPoint：スライドの作成・アニメーションの設定 スライドショーの実施方法・印刷設定									
8	PowerPoint：図解表現の手法・指示するテーマを元に課題の作成									
9	Excel：入力と編集方法・数式や関数(SUM・AVERAGE)・書式設定・行列操作・表示形式・保存・印刷設定									
10	Excel：相対参照と絶対参照の使い分けをした数式									
11	Excel：複数ページの内容に対する印刷設定・基本的な関数(MAX・MIN・COUNT・COUNTA)									
12	Excel：グラフ作成									
13	Excel：データベースの操作(並べ替え・抽出)									
14	試験(筆記) 2回目(Excel・PowerPoint関連) Excel：順位付けの関数・条件分岐の関数(RANK.EQ・IF)									
15	Excel：一覧表から参照する関数(VLOOKUP)									
教科書	『30時間アカデミック 情報リテラシーOffice2013』杉本くみ子/大澤栄子著、実教出版									
参考文献	進行に応じてプリントを配付する。									
備考	<p>授業中にパソコンの操作手順を示す場合は、講師の操作画面を各学生のパソコン画面へ映す授業支援システム(SkyClassesMng)を利用する。</p> <p>授業内容は、クラス全体の操作の進捗により前後する場合もある。</p> <p>「試験」は、Word・Excel・PowerPointの使用法に関する筆記試験を授業時間内に2回実施する。</p> <p>「課題」は、指示した作成ファイルをデータ形式で提出する。後日、添削をした上で各学修者へ返却する。</p> <p>当科目は2クラスに分けて実施する。</p>									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-1-FCO-02				
	●				●					
科目名	マーケティング				単位認定者	小形 美樹		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
	現代英語学科	選択	2年			授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	「4P」といわれるプロダクト、プライス、プレイス、プロモーションを中心としたマーケティング・ミックスの考え方や、ビジネスの環境変化に対応した新しいマーケティングの方法を学ぶ。また、生産と消費を結ぶ流通がどのような機能と役割を担っているのかを、小売業を中心に学ぶ。									
到達目標	消費者として企業のマーケティング活動の内容を知り、普段の生活と企業の関わりについて身近な問題として捉える力を習得する。									
学修者への期待等	「マーケティング」を学ぶことにより、消費者として市場をみつめる目も養われる。日常生活の中でも、商品やサービスがどのような販売戦略によって市場に導入されているかなどについて考えるようにし、理論と実務の両面から「マーケティング」を捉えるようにしてほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	マーケティングとは何か				復習として、マーケティングとは何かについて整理をしておいてください。（1時間程度）					
2	STP(1) セグメンテーションとターゲティング				復習として、セグメンテーションとターゲティングについて整理をしておいてください。（1時間程度）					
3	STP(2) ポジショニング				復習として、ポジショニングについて整理をしておいてください。（1時間程度）					
4	4つのP(1) Product 〈製品〉				復習として、製品について整理をしておいてください。（1時間程度）					
5	4つのP(2) Price 〈価格〉				復習として、価格政策について整理をしておいてください。（1時間程度）					
6	4つのP(3) Place 〈流通チャネル〉				復習として、流通チャネルについて整理をしておいてください。（1時間程度）					
7	4つのP(4) Promotion 〈販売促進〉				復習として、販売促進について整理をしておいてください。（1時間程度）					
8	具体例で考えるSTPと4つのP				復習として、STPと4Pについて整理をしておいてください。（1時間程度）					
9	売り手・買い手の力関係、業界内の競争関係				復習として、売り手・買い手の力関係、業界内の競争関係について整理をしておいてください。（1時間程度）					
10	消費者行動				復習として、消費者行動について整理をしておいてください。（1時間程度）					
11	eコマース				復習として、eコマースについて整理をしておいてください。（1時間程度）					
12	サービス業のマーケティング				復習として、サービス業のマーケティングについて整理をしておいてください。（1時間程度）					
13	法律と政策の関与				復習として、法律と政策について整理をしておいてください。（1時間程度）					
14	ソーシャル・マーケティング				復習として、ソーシャル・マーケティングについて整理をしておいてください。（1時間程度）					
15	マーケティング・コミュニケーション				復習として、マーケティング・コミュニケーションについて整理をしておいてください。（1時間程度）					
教科書	第1回～第14回：丸山正博著『プレステップマーケティング<新版>』弘文堂 第15回：辻大介他著『コミュニケーション論をつかむ』有斐閣（「コミュニケーション論」と同じ）									
参考文献	・沼上幹著『わかりやすいマーケティング戦略 新版』有斐閣アルマ ・高嶋克義・桑原秀史著『現代マーケティング論』有斐閣アルマ									
備考	・受講者の理解度等により、講義の順番や重点の置き方を変えることがある。 ・授業内で配布した資料は原則としてLMSで配信する。 ・当科目は2クラスに分けて実施する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●			●	●

科目ナンバリング
TB-1-FCO-03

科目名	観光概論				単位認定者	成澤 広幸		評価の方法	試験 (Web)	45 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2単位		授業内課題	45 %
					授業形態	講義	授業時間数		30時間	受講態度
							授業回数		15回	
授業の概要	観光は21世紀最大の産業であるといわれ、わが国でも観光立国政策に沿って内外の観光客の獲得競争が始まっている。本科目では、観光活動を産業の立場から概観し、観光が多くの個別的な産業に支えられて、最終的には豊かな国民生活に貢献していることを学ぶ。具体的には、観光活動を主な原因とする経済規模のひろがりを、日本と世界のレベルで見ながら、観光活動を構成する移動・宿泊・レジャーという三大要素と個別的な産業との関わりについて講義し、最後に観光活動の経済的効果についてまとめる。									
到達目標	現代における観光現象を総合的に理解し、基本的・個別的な観光問題について、自分のことばで説明を行うことができるようになる。									
学修者への期待等	観光を考える素材は日常生活の至る所にあります。観光は身近な存在なので、当然のことのようにその意義を考えることが少ないと思われませんが、身の回りにあふれる観光に関することに注意を向けてほしい。そうすれば観光の豊かな世界が見えてきます。									
回	授業計画				準備学修					
1	「観光」の概念と現代における意義				観光とは何だろうかということを考えておいてください。 準備学修：概ね30分。復習：概ね20分。					
2	観光の諸制度				観光活動を盛んにする仕組みは何かを考えておいてください。 準備学修：概ね30分。復習：概ね20分。					
3	観光の効果と影響				観光が個人や社会、環境にもたらすものをプラスとマイナスの両面で考えておいてください。準備学修：概ね30分。復習：概ね20分。					
4	観光と経済				観光がミクロとマクロの双方でどのような影響をもたらすかについて、考えておいてください。 準備学修：概ね30分。復習：概ね20分。					
5	観光と情報				観光情報の発信方法とメディアについて考えておいてください。 準備学修：概ね30分。復習：概ね20分。					
6	観光と環境				観光活動と環境保護の関係について考えておいてください。 準備学修：概ね30分。復習：概ね20分。					
7	観光と地域社会				観光が地域に何をもちたすのかを考えておいてください。 準備学修：概ね30分。復習：概ね20分。					
8	観光開発				観光開発が持続するための工夫について考えておいてください。 準備学修：概ね30分。復習：概ね20分。					
9	観光行動				具体的に観光行動を起こすプロセスを自己に即してまとめておいてください。 準備学修：概ね30分。復習：概ね20分。					
10	観光と文化				文化が観光商品となるとはどういうことかについて考えておいてください。 準備学修：概ね30分。復習：概ね20分。					
11	観光と教育・福祉				観光の教育的・福祉的役割について考えておいてください。 準備学修：概ね30分。復習：概ね20分。					
12	観光と交通				観光における移動について考えておいてください。 準備学修：概ね30分。復習：概ね20分。					
13	観光と宿泊				旅行時の宿泊について、施設の種類やサービスなどを経験に即してまとめておいてください。 準備学修：概ね30分。復習：概ね20分。					
14	観光と旅行業				旅行会社の役割について考えておいてください。 準備学修：概ね30分。復習：概ね20分。					
15	観光産業と投資				観光業の発展に必要な投資と資金調達の特徴について考えておいてください。 準備学修：概ね30分。復習：概ね20分。					
教科書	特になし									
参考文献	前田勇『新現代観光総論』学文社。岡本伸之『観光学入門』有斐閣。大橋昭一その他『観光学ガイドブック』ナカニシヤ出版。井口貢『観光学への扉』学芸出版社。その他は授業中に適宜紹介します。									
備考	原則として事前にLMSに授業ファイルをアップロードするので、それを見ながら事前学修及び復習をしてください。随時、LMSなどで課題の提出を行う予定です。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要,実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-1-FCO-04				
	●	●		●	●					
科目名	観光ビジネス論				単位認定者	成澤 広幸		評価の方法	試験 (Web)	45 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	45 %
	現代英語学科	選択	2年			授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	観光事業は、観光政策のように国や地方公共団体などが公共目的で実施するマクロ的なものと、個々の企業や組織が営利または非営利の目的をもって行うミクロ的なものとに分けられる。本科目では、企業や組織の営む観光ビジネスの全体像について概観する。具体的には、観光ビジネスの基本である移動と宿泊、観光地での諸活動、それらの仲介サービスにおいて、それらの企業や組織がいかなるビジネスモデルに則って事業活動を展開しているのかについて、豊富な事例研究を交えながら理解を深める。									
到達目標	様々な組織や団体の観光事業について概略を理解し、社会との関わりの中でどのような役割を果たしているのかを説明できるようになる。									
学修者への期待等	観光ビジネスは個別的な観光活動が対象ですが、難しく考えないで、身近な観光キャンペーンや地域おこしなどで観光が果たしている役割を考えれば、この授業はわかりやすくなります。									
回	授業計画				準備学修					
1	観光ビジネスのマネジメント特性：TDRのマネジメント				TDRのマネジメントのどこが優れているのかを考えておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。					
2	観光ビジネスのイノベーション。事例：楽天トラベル				旅行業における販売方法の進化について理解しておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。					
3	観光ビジネスのグローバル経営。事例：H. I. S.				H. I. S. の海外戦略について理解しておいてください。予習：概ね20分。復習：概ね20分。					
4	観光のマーケティング。事例：下関観光コンベンション協会				地域の観光マーケティングを事例に則して考えておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。					
5	観光とWebビジネス。事例：エクスペディア				エクスペディアのマーケティングの特徴を理解しておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。					
6	旅行業。事例：JTB				JTBの変貌についてしっかり理解しておいてください。予習：概ね20分。復習：概ね20分。					
7	宿泊業。事例：星野リゾート				星野リゾートの方向性をよく理解しておいてください。予習：概ね20分。復習：概ね20分。					
8	航空輸送業。事例：ANA				レベニュー・マネジメントの例をもっと考えておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。					
9	鉄道ビジネス。事例：JR九州				JR九州の活躍の理由を考えておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。					
10	テーマパーク。事例：ハウステンボス				なぜリピーターになるのかを考えておいてください。予習：概ね20分。復習：概ね20分。					
11	グローバル時代の地域観光インフラ。事例：統合型リゾート (IR)				IRの必要性について考えておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。					
12	地域のインバウンド事業。事例：九州オルレ				なぜ九州オルレが成功したか考えておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。					
13	地域の観光まちづくり事業。事例：長崎県小値賀島				故郷で観光を軸とした地域おこしをすれば何が必要かを考えておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。					
14	地域ブランドの構築。事例：宇都宮市				事例を参考に故郷の地域ブランドは何かを考えておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。					
15	新しい旅行スタイル：進化する旅行者ニーズと観光創造				日本内外の観光行動についてのニュース、話題などに注意しておいてください。 予習：概ね20分。復習：概ね20分。					
教科書	特になし									
参考文献	高橋一夫その他『1からの観光事業論』碩学社。高橋一夫その他『1からの観光』碩学社。北川宗忠『現代の観光事業』ミネルヴァ書房。長谷政弘『観光ビジネス論』同友館。									
備考	原則として事前にLMSに授業ファイルをアップロードするので、それを見ながら事前学修及び復習をしてください。LMSなどで課題の提出を行う予定です。 なお、本科目は2クラスに分けて実施します。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要,実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-14				
	●	●		●						
科目名	旅行業法				単位認定者	佐藤 美輪		評価の方法	試験(筆記)	45 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	45 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	受講態度
							授業回数		15 回	
授業の概要	<p>本科目では、旅行業に関する法制度についての基礎を理解することを目的とする。旅行業務に関わる取引の公正の維持、旅行の安全確保、旅行者の利便増進を目的として制定された旅行業法について、それらの目的を達成するために設けられた様々な制度について学修する。</p> <p>旅行業法の目的、登録・営業保証金制度、旅行業務取扱管理者制度、旅行取引に関する諸規則、旅行業協会制度など、旅行業法を系列的に学ぶ。</p>									
到達目標	旅行業に関する法制度について具体的に触れることにより、法律と実務の関連性について理解できるようになる。									
学修者への期待等	限られた時間の中で最大限の学修成果を得るためにも、1回ごとの授業を大切にしてほしい。また、授業時間外においても講義内容の復習や問題演習も積極的に行ってほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	総則				事前に教科書の総則の箇所を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
2	登録制度				事前に教科書の登録制度の箇所を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
3	営業保証金制度				事前に教科書の営業保証金の箇所を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
4	旅行業務取扱管理者 旅行業務取扱料金				事前に教科書の旅行業務取扱管理者、旅行業務取扱料金の箇所を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
5	旅行業約款				事前に教科書の旅行業約款の箇所を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
6	標識				事前に教科書の標識の箇所を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
7	取引条件の説明と契約書面の交付				事前に教科書の取引条件の説明と契約書面の交付の箇所を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
8	外務員 広告表示等誇大広告の禁止				事前に教科書の外務員、広告表示等誇大広告の禁止の箇所を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
9	旅程管理				事前に教科書の旅程管理の箇所を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
10	受託契約				事前に教科書の受託契約の箇所を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
11	旅行者代理業 禁止行為・登録の取消し等				事前に教科書の旅行者代理業者、禁止行為・登録の取消し等の箇所を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
12	旅行サービス手配業				事前に教科書の旅行サービス手配業の箇所を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
13	旅行業協会				事前に教科書の旅行業協会の箇所を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
14	問題演習(第1回～第13回分)				第1回～第14回までに行った授業内容を復習し、授業に臨んでください。(1時間程度)					
15	募集型企画旅行の広告				事前に旅行のパンフレットに目を通して授業に臨んでください。(30分程度)					
教科書	資格の大原 旅行業務取扱管理者講座 旅行業法・約款』大原出版				編著『2020年対策 旅行業務取扱管理者試験 標準テキスト 2 旅行業法・約款』大原出版					
	資格の大原 旅行業務取扱管理者講座 問題集2 旅行業法・約款』大原出版				編著『2020年対策 旅行業務取扱管理者試験 標準トレーニング』大原出版					
参考文献	必要に応じて指示する。									
備考	<p>本科目は国内旅行業務取扱管理者試験、地域限定旅行業務取扱管理者試験の受験科目の1つである「旅行業法」についても対応する。</p> <p>1. 「地域限定旅行業務取扱管理者試験」「国内旅行業務取扱管理者試験」の受験予定者は「旅行業約款」「国内運賃・旅費計算Ⅰ」を併せて受講するとよい。</p> <p>2. 受講者の理解度により、講義順序や重点の置き方を変更することがある。</p> <p>3. LMSにおいて毎回小テストを実施する。</p>									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-15				
	●	●		●						
科目名	旅行業約款				単位認定者	佐藤 美輪		試験（筆記）	45 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題	45 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	旅行業約款を中心に、旅行業界に関係する約款について学修する。約款の目的、企画旅行契約、手配旅行契約などの旅行業約款や、JRなどの運送約款、宿泊約款などを系統立てて学び、旅行業界の仕事の流れを理解する。									
到達目標	旅行業界や運送業界等の約款について具体的に触れることにより、約款と実務の関連性について理解できるようになる。									
学修者への期待等	限られた時間の中で最大限の学修成果を得るためにも、1回ごとの授業を大切にしてほしい。また、授業時間外においても講義内容の復習や問題演習も積極的に行ってほしい。									
回	授業計画			準備学修						
1	総則			事前に教科書の総則を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）						
2	契約の成立			事前に教科書の契約の成立を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）						
3	契約の変更			事前に教科書の契約の変更を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）						
4	旅行者の解除権			事前に教科書の旅行者の解除権を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）						
5	旅行者の解除権			事前に教科書の旅行者の解除権を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）						
6	団体・グループ 旅程管理			事前に教科書の団体・グループ、旅程管理を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）						
7	責任 旅行相談契約			事前に教科書の責任、旅行相談契約を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）						
8	旅程保証			事前に教科書の旅程保証を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）						
9	特別補償規程			事前に教科書の特別補償規程を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）						
10	問題演習（第1回～第9回分）			第1回～第9回までに行った授業内容を復習し、授業に臨んでください。（1時間程度）						
11	モデル宿泊約款			事前に教科書のモデル宿泊約款を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）						
12	J R 旅客営業規則			事前に教科書のJR旅客営業規則を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）						
13	貸切バス約款			事前に教科書の貸切バス約款を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）						
14	フェリー標準運送約款			事前に教科書のフェリー標準約款を読んで授業に臨んでください。（1時間程度）						
15	問題演習（第11回～第14回分）			第11回～第14回までに行った授業内容を復習し、授業に臨んでください。（1時間程度）						
教科書	資格の大原 旅行業務取扱管理者講座 編著『2020年対策 旅行業務取扱管理者試験 標準テキスト 2 旅行業法・約款』大原出版 資格の大原 旅行業務取扱管理者講座 編著『2020年対策 旅行業務取扱管理者試験 標準トレーニング問題集2 旅行業法・約款』大原出版									
参考文献	必要に応じて指示する。									
備考	本科目は国内旅行業務取扱管理者試験、地域限定旅行業務取扱管理者試験の受験科目の1つである「旅行業約款」についても対応する。 1. 「地域限定旅行業務取扱管理者」「国内旅行業務取扱管理者試験」の受験予定者は「旅行業法」「国内運賃・旅費計算Ⅰ」を併せて受講するとよい。 2. 受講者の理解度により、講義順序や重点の置き方を変更することがある。 3. LMSにおいて毎回小テストを実施する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-16				
	●	●		●						
科目名	国内運賃・旅費計算 I				単位認定者	佐藤 美輪				
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	前期	評価の方法	試験(筆記)	45%		
							単位数	2 単位	授業内課題	45%
				授業形態	講義		授業時間数	30 時間	受講態度	10%
							授業回数	15 回		
授業の概要	旅行実務の中心となる運賃計算・旅費について学ぶ。具体的にはJRの運賃料金計算を主とし、他にも宿泊料金や貸切バス、フェリーの運賃・料金の構成等を理解し、旅行業務に関する実務能力を修得する。									
到達目標	旅行実務で使われるJR、フェリー会社、貸切バス等の運賃料金計算の仕組みが理解できるようになる。									
学修者への期待等	限られた時間の中で最大限の学修成果を得るためにも、1回ごとの授業を大切にしてほしい。また、授業時間外においても講義内容の復習や問題演習も積極的に行ってほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	旅客営業規則 旅客の年齢区分 JR運賃計算① 運賃計算の基礎				事前に教科書の旅客営業規則を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
2	JR運賃計算② 通過連絡運輸の取扱い・連続運賃計算・運賃計算の特例				事前に教科書の通過連絡運輸の取扱い、連続運賃計算、運賃計算の特例を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
3	JR運賃計算③ 割引運賃				事前に教科書の割引運賃を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
4	JR料金計算① 料金計算の基礎・グリーン料金・寝台料金				事前に教科書の料金計算の基礎、グリーン料金、寝台料金を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
5	JR料金計算② サンライズ瀬戸号 新幹線との乗継割引				事前に教科書のサンライズ瀬戸号、新幹線との乗継割引を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
6	JR料金計算③ 北海道特急との乗継割引 新幹線・在来線通し計算				事前に教科書の北海道特急との乗継割引、新幹線・在来線通し計算を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
7	JR料金計算④ 東海道・山陽・九州新幹線				事前に教科書の東海道・山陽・九州新幹線を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
8	JR料金計算⑤ 東北・北陸・北海道新幹線				事前に教科書の東北・北陸・北海道新幹線を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
9	問題演習(第1回～第8回分)				第1回～第8回までに行った授業内容を復習し、授業に臨んでください。(1時間程度)					
10	JRその他				事前に教科書のJRその他を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
11	宿泊料金計算				事前に教科書の宿泊料金計算を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
12	貸切バス運賃・料金計算				事前に教科書の貸切バス運賃・料金計算を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
13	フェリー運賃・料金計算				事前に教科書のフェリー運賃・料金計算を読んで授業に臨んでください。(1時間程度)					
14	問題演習(第10回～第13回分)				第10回～第13回までに行った授業内容を復習し、授業に臨んでください。(1時間程度)					
15	JRを利用した旅行プラン作成									
教科書	資格の大原 旅行業務取扱管理者講座 編著『2020年対策 旅行業務取扱管理者試験 標準テキスト3 国内旅行実務』大原出版 資格の大原 旅行業務取扱管理者講座 編著『2020年対策 旅行業務取扱管理者試験 標準トレーニング問題集3 国内旅行実務』大原出版									
参考文献	必要に応じて指示する。									
備考	本科目は地域限定旅行業務取扱管理者試験の受験科目の1つである「国内旅行実務」についても対応する。 1. 「地域限定旅行業務取扱管理者」の受験予定者は「旅行業法」「旅行業約款」を併せて受講するとよい。 2. 受講者の理解度により、講義順序や重点の置き方を変更することがある。 3. LMSにおいて毎回小テストを実施する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング	
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-18	
	●			●			
科目名	国内観光地理 I				単位認定者	佐藤 美輪	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間
						授業回数	15 回
評価の方法	試験 (レポート)		50 %		授業内課題		50 %
授業の概要	<p>本科目は、観光地の生成・機能・構造について、内外の著名な観光地を事例として取り上げて講義する。具体的には、まず内外の観光地発達史を概説した後、観光地の分布、立地、観光資源、観光産業との関わり、観光客の地域特性、観光圏・観光ルートの変遷、観光地の環境保全や世界遺産などに留意しつつ、温泉、海浜、避暑・避暑、都市、田園、山岳などにおいて、いかに観光活動が自然地理的資源、人文地理的資源を利用して誕生・発展し、観光地が開発されてきたかを学ぶ。</p>						
到達目標	<p>日本には多くの観光地が存在する。現在に至るまでの観光地の歴史を理解できるようになる。また、テキストの内容に留まらず、興味を持った観光地を自ら調べ、説明することができるようになる。</p>						
学修者への期待等	<p>講義による学修だけではなく、グループワーク等の実践演習を計画してるため、遅刻・欠席等が極力生じないように注意すること。また、足を運んだことが無い地域ほど、講義以外の時間でも自主学修を通し理解を深めるように努力してほしい。</p>						
回	授業計画			準備学修			
1	日本全土について			日本地図等で47都道府県の位置を確認し、授業に臨むと効果的です。(1時間程度)			
2	北海道地方の地理歴史			教科書等で北海道を読んでおく効果的です。(1時間程度)			
3	東北地方の地理歴史 (青森・秋田・岩手)			教科書等で青森・秋田・岩手を読んでおく効果的です。(1時間程度)			
4	東北地方の地理歴史 (山形・宮城・福島)			教科書等で山形・宮城・福島を読んでおく効果的です。(1時間程度)			
5	関東地方の地理歴史 (新潟・群馬・栃木・茨城)			教科書等で新潟・群馬・栃木・茨城を読んでおく効果的です。(1時間程度)			
6	関東地方の地理歴史 (埼玉・千葉・東京・神奈川)			教科書等で埼玉・千葉・東京・神奈川を読んでおく効果的です。(1時間程度)			
7	関東地方・中部地方の地理歴史 (山梨・長野・静岡)			教科書等で山梨・長野・静岡を読んでおく効果的です。(1時間程度)			
8	中部地方の地理歴史 (愛知・岐阜・富山)			教科書等で愛知・岐阜・富山を読んでおく効果的です。(1時間程度)			
9	中部地方・関西地方の地理歴史 (石川・福井・滋賀)			教科書等で石川・福井・滋賀を読んでおく効果的です。(1時間程度)			
10	関西地方の地理歴史 (京都・奈良)			教科書等で京都・奈良を読んでおく効果的です。(1時間程度)			
11	関西地方の地理歴史 (三重・和歌山・大阪・兵庫)			教科書等で三重・和歌山・大阪・兵庫を読んでおく効果的です。(1時間程度)			
12	中国地方の地理歴史 (鳥取・島根・岡山・広島・山口)			教科書等で鳥取・島根・岡山・広島・山口を読んでおく効果的です。(1時間程度)			
13	四国地方の地理歴史 (香川・徳島・愛媛・高知)			教科書等で香川・徳島・愛媛・高知について読んでおく効果的です。(1時間程度)			
14	九州地方の地理歴史 (福岡・佐賀・長崎・熊本)			教科書等で福岡・佐賀・長崎・熊本を読んでおく効果的です。(1時間程度)			
15	九州地方・沖縄の地理歴史 (大分・宮崎・鹿児島・沖縄)			教科書等で大分・宮崎・鹿児島・沖縄を読んでおく効果的です。(1時間程度)			
教科書	『国内観光地理サブノート』 株式会社JTB総合研究所 『国内観光資源 2020』 株式会社JTB総合研究所						
参考文献	必要に応じて紹介する。						
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・受講者の理解度により、講義順序や重点の置き方を変更することがある。 ・LMSにおいて毎回小テストを実施する。 						

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-29				
		●								
科目名	観光英語				単位認定者	吉野 千乃		試験(レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	1年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	観光の現場では、日常英会話のみならず、特定の用語や表現等の理解が必要となる。本科目では、日常英会話力の向上と観光現場で必要となる用語・表現等の修得をめざす。空港やホテルなどの海外旅行で接する会話場面を想定し、旅行者としてまた観光業従事者として必要となる表現を学修する。日常英会話力の向上のため、授業の一部にはオンライン英会話を取り入れる。									
到達目標	観光分野に関する様々な英語語彙, 表現を身につけて, 基本的な接遇ができるようになる。									
学修者への期待等	事前に指定箇所の予習を行い授業に臨むこと。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業の進め方について/観光英検とか何か									
2	Unit 1 Travel				Unit 1 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく。(40分程度)					
3	Unit 2 Jobs and people				Unit 2 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく。(40分程度)					
4	Unit 3 Getting on the Plane				Unit 3 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく。(40分程度)					
5	Unit 4 Immigrations and Customs				Unit 4 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく。(40分程度)					
6	Unit 5 At the Airport				Unit 5 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく。(40分程度)					
7	Unit 6 Hotel (Accommodations)				Unit6 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく。(40分程度)					
8	Unit 7 Restaurant				Unit 7 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく。(40分程度)					
9	Unit 8 Sightseeing				Unit 8 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく。(40分程度)					
10	Unit 9 Shopping				Unit 9 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく。(40分程度)					
11	Unit 10 Transportation				Unit 10 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく。(40分程度)					
12	Unit11 Problems and Complains				Unit 11 Vocabularyを完成させておく。不明な語彙は必ず辞書等で確認しておく。(40分程度)					
13	Additional Unit Traveling in Japan									
14	観光英語検定3級 問題演習① 過去問題 (第40回)									
15	観光英語検定3級 問題演習② 過去問題 (第41回)									
教科書	観光英検センター編著 (2014) 『ベーシック観光英語』 三修社									
参考文献	資料はLMSより随時配信する。									
備考	授業内でオンライン英会話を10回実施する。詳細は履修者に説明する。オンライン英会話の授業は情報処理室で実施する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要,実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-04			
	●		●						
科目名	基礎ゼミ				単位 認定者	成澤広幸 小形美樹 吉野千乃 佐藤美輪 出野由紀子		試験(レポート) 70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の 方法	受講態度 30 %
				授業形態	演習	授業時間数	30 時間		
						授業回数	15 回		
授業の概要	<p>初学者が大学教育を学ぶにあたって必要とされる基礎力を養う。2年間の短期大学での学びを有意義なものとするための基礎的なスキルを身につけ、大学生活の様々な場面で活用できるようになることを目的とする。</p> <p>また、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じて、コミュニケーションスキルの向上を目指す。</p>								
到達目標	<p>大学新入生が、授業を中心とした大学生活において身につけておくべきさまざまなスキルを修得し、大学生活のいろいろなシーンで活用できるようになる。</p>								
学修者への期待等	<p>学習内容により、1年生全員が合同で受講する場合と各ゼミごとに受講する場合がある。事前に掲示板等で連絡するので、欠席や遅刻をせず、どちらにも積極的に参加すること。また、各ゼミごとの演習では、担当教員の指示に従うこと。</p>								
回	授業計画				準備学修				
1	ガイダンス, グループワークの進め方				学生便覧とシラバスを持参してください。自己紹介の内容を考えてきてください。(30分程度)				
2	スタディースキル① レポート作成の技術, 図書館の活用方法								
3	スタディースキル② 観光ビジネス学科での学びを考える (職業人の講話を聞く)								
4	スタディースキル③ グループディスカッションの基礎								
5	スタディースキル④ プレゼンテーションの基礎								
6	新聞セミナー① 情報リテラシーをつけよう								
7	新聞セミナー② 記事の構成, 文章の作り方								
8	観光とサービス介助 (職業人の講話を聞く)								
9	観光と旅館業 (職業人の講話を聞く)								
10	フィールドワーク① 課題設定と調査方法								
11	フィールドワーク② 現地調査								
12	フィールドワーク③ 調査内容のまとめ								
13	フィールドワーク④ ゼミ内発表, 講評								
14	社会人への一步 講演会 (職業人の講話を聞く)				講演者 (氏名やプロフィールは事前に紹介) に対する質問事項を用意しておいてください。(30分程度)				
15	観光ビジネス学科の4つのモデル, 総合演習 I の募集								
教科書	特に指定しないが, 参考資料を適宜配布する								
参考文献	授業中に各教員から指示する。								
備考	<ul style="list-style-type: none"> 授業の順番や進行は, 受講者の理解度等によって変更することがある。 1年合同開講: 第6回~第10回, 第13回~第15回, それ以外の授業回はゼミ別で実施する。 								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要, 実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-0-HCU-02		
	●	●		●	●			
科目名	東北学				単位認定者	榎森 進 黒田 清志		※詳細は「備考」欄を参照すること。
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間	
						授業回数	15 回	
授業の概要	東北における観光ビジネスを学ぶうえで重要となる、東北の歴史・文化・社会・経済について総合的に理解する。 (榎森) 東北地方の歴史的な性格や、その歴史の上に受け継がれている伝統や年中行事、食や生活習慣、言葉などを理解し、豊かな文化をもつ東北の歴史と文化について探求することを目的とする。 (黒田) 東北地方の社会・経済について理解し、地域社会を活性化するための企画の手法などについて学ぶ。							
到達目標	(榎森) 東北地方の歴史と文化に関する知識を得、当該問題について他人に説明出来るようになる。 (黒田) ①東北の地域資源を知る。 ②地域資源を活かす方法を学ぶ。							
学修者への期待等	(榎森) 事前に各回のテーマに関する参考文献を教室で指示しますので、各回ともその参考文献に目を通して受講して下さい。 (黒田) 自ら地域資源を調べ、それを活かす企画の方法・技術を身につける。							
回	授業計画				準備学修			担当
1	東北地方の歴史や文化の諸相を多様な視点から考えることの大切さーグローバルズムとレジオナリズムー				第2回目の講義との関わりで児島恭子著『エミシ・エゾからアイヌへ(歴史文化ライブラリー)』(吉川弘文館)に目を通して下さい。(概ね1時間程度) その後も次回のテーマに関する参考文献を提示しますので、各回とも参考文献に目を通して受講すること(1時間程度)。			榎森 進
2	エミシ・エゾ・アイヌー中央政権側の奥羽民衆に対する認識の変遷とその歴史的背景ー							榎森 進
3	奥州藤原氏3代の歴史的な位置							榎森 進
4	17世紀には下北半島が盛岡藩の北の玄関だった							榎森 進
5	松前藩の経済を支えた出羽村山地方の年貢米							榎森 進
6	奥羽大名の幕府への献上品から見た近世奥羽の特産物							榎森 進
7	幕末における奥羽諸藩の蝦夷地警備と経営							榎森 進
8	日本の食文化における東北地方の食文化の位置							榎森 進
9	戊辰戦争と奥羽の世界							榎森 進
10	英国婦人イサベラ・バードが見た明治初期の東北							榎森 進
11	東北学の学び方と関わり方				提示した参考文献等を読んでおくこと	黒田 清志		
12	地域を知る				同上	黒田 清志		
13	地域のマーケティング				同上	黒田 清志		
14	地域活性化の方策 企画力				同上	黒田 清志		
15	良い地域をつくるために				同上	黒田 清志		
教科書	(榎森) 特に無し。 (黒田) テキスト等は授業の都度配付。							
参考文献	(榎森) 東北学院大学歴史学科編「大学で学ぶ東北の歴史」 (黒田) 参考文献等は授業の都度、提示します。							
備考	「評価の方法」について (榎森) 試験(レポート) 80% 受講態度 20% (黒田) 試験(レポート) 70% 受講態度 30% フィードバックは毎回「感想と意見」に基づいて行う。							

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

(黒田清志)
H6年からH23年まで仙台市経済局、および仙台市観光コンベンション協会、また、中小企業診断士として、地域の中小企業、商店街、農業、観光の支援事業を担当。その後、山形県など各地の研修会等のセミナー講師、アドバイザーを務める。
広範囲の業種の事業者の経営支援や東北の地域活性化事業に関わってきた経験から、特に経済や文化的側面について、分かりやすく具体的な授業を行う。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HCU-03			
	●			●					
科目名	歴史と文化				単位認定者	丸藤 准二 徳田 幸雄	評価の方法	※詳細は備考欄を参照すること	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数		1 単位	
				授業形態	講義	授業時間数		20 時間	
						授業回数	10 回		
授業の概要	<p>こんにちの世界を理解するためには、歴史、宗教、思想などの多様な側面の知識が必要となる。特に、近現代を中心とした歴史や世界の諸宗教の理解は重要である。これらの基礎的知識を身に付け、また、世界に大きな影響を与えた思想や書物などにも触れ、こんにちの世界に対する自己の見識を持てるようになることを目的とする。</p>								
到達目標	<p>(丸藤) 近現代世界の形成上、重要な役割を持つ歴史事象について、社会・経済・文化の観点から各回主題を設けて講義する。主題に関する諸問題を理解し、近現代の世界に対する知識・理解・関心を深めることを目標とする。 (徳田) 人間のみが持ち得る、歴史や文化、宗教を学ぶことによって、社会人、そして家庭人としても有用な、より深く、豊かな人間の理解を身に付けることを目標とする。</p>								
学修者への期待等	<p>授業を理解するために、毎回必ず出席してください。歴史的な事象を理解するのみならず、その事象が現代の世界にどのような影響を与えているかを考えるよう心がけてください。</p>								
回	授業計画				準備学修		担当		
1	ユダヤ教について －律法の遵守－				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄		
2	キリスト教について －罪からの救い－				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄		
3	イスラームについて －神への服従－				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄		
4	インドの宗教について －業と輪廻－				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄		
5	仏教について －苦からの解脱－				授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)		徳田 幸雄		
6	グローバルエコノミーのはじまり －西欧の拡大:地域間経済から世界経済へ－				レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させること。(約1時間)		丸藤 准二		
7	科学革命と啓蒙 －「知」の大転換と新しい「知」の広がり－				レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させること。(約1時間)		丸藤 准二		
8	産業革命 －人類史の分水嶺:工業化による経済・社会の変革－				配布したレジュメを中心に今回の授業内容を復習し、課題を完成させること。(約1時間)		丸藤 准二		
9	ビジネスの歴史・教育の歴史・医療の歴史 －諸制度の発展と近代社会－				レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに、課題を完成させること。(約1時間)		丸藤 准二		
10	現代世界とグローバルヒストリー －現代世界の成立と新しい歴史観－				今回の授業を復習するとともに、これまでの授業全体を理解すること。(約1時間)		丸藤 准二		
教科書	教科書は使用せず、授業において適宜資料を配布します。								
参考文献	授業において指示します。								
備考	<p>評価の方法について (丸藤) 授業内課題(各授業回での課題)100% (徳田) 授業内課題(チェック・テスト)100%</p>								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学修力	地域理解力	CO-0-HSO-02			
	●			●					
科目名	暮らしの中の法律				単位認定者	湯本 あゆみ		試験（レポート）	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業時間数	20 時間		
						授業回数	10 回		
授業の概要	法律問題の理解に必要な基本法である憲法、民法等の条文に触れ、法律の基礎知識を修得する。憲法では基本的人権や最近議論されている憲法改正等を、民法では日常生活で生じる契約や家族といった学生にとって身近な法律問題を、積極的に取り上げる。さらに、身近な法律問題について、具体的な事例を検討させ、事例から結論に至る論理を理解する。他者の意見を理解するとともに、自己の意見を持つ機会を与え、法的思考力を身につける。								
到達目標	法の基本原則や概念を理解し、説明できる。そして具体的な法律問題について、法的論理・根拠に基づいて自ら結論を導くことができる。								
学修者への期待等	本講義では、法について広く学ぶため、さまざまな法律用語や考え方に触れることとなります。そのため、特に復習に重点を置いて、各講義で学んだことを逐一整理し理解するようにして下さい。「なぜ」という部分を重視し、学修に取り組むようにして下さい。また、各講義の最後に復習問題を出しますので、しっかり取り組むこと。								
回	授業計画				準備学修				
1	ガイダンス、法学の基礎				法学の基礎について、復習すること。（概ね30分程度）				
2	司法制度、法体系の概要				裁判所がどういったことを行っているのか、考えてくること。（概ね30分程度）				
3	憲法 憲法の基本				国民主権、基本的人権の尊重、平和主義が、どういった内容を有するのかについて考えてくること。（概ね30分程度）				
4	憲法 人権① 精神的自由				第3回の講義内容を復習し、基本的人権における精神的自由の内容には、どういったものが含まれていたかを確認してくること。（概ね30分程度）。				
5	憲法 人権② 経済的自由				第4回の講義内容（人権①）を復習し、第4回の講義に臨むこと。（概ね30分程度）				
6	憲法 統治								
7	民法 財産法① 民法の基本原則				第2回の講義内容を復習し、民法がどういった法に当たるのかについて確認してくること。（概ね20分程度）				
8	民法 財産法② 契約と不法行為								
9	民法 親族相続法								
10	刑法 罪刑法定主義など、講義のまとめ				第2回の講義内容を復習し、刑法がどういった法に当たるのかについて確認してくること。（概ね20分程度）				
教科書	特に指定しない。								
参考文献	末川博編『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣、2014年）、伊藤正己、加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣、2005年）。その他については、初回の講義で案内する。								
備考	授業内容は、進度に応じて変更する場合がある。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSO-03				
	●			●	●					
科目名	現代の社会				単位認定者	吉田 理		授業内課題等	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
						授業時間数	20 時間			
				授業形態	講義	授業回数	10 回			
授業の概要	現代の日本及び世界がどのような構造になっているかについて、経済、政治の視点を主としながら理解する。また、日本社会が抱える諸問題についても考える。現代の社会を生きるために不可欠な基礎知識を身につけ、社会の動向に絶えず関心を持ち続け、社会生活において的確な選択や判断ができるようにする。									
到達目標	取り上げるテーマは、いづれも社会人として当然備えるべき常識と考えられる事項である。社会生活自体はもちろんのこと就職活動における面接等でそれらについて問われた際に、概略と自身の考えを述べられるようになることを目標とする。									
学修者への期待等	「自立した大人」になるための下地を作ってほしいという観点から、各人の専攻に関わらず社会人として当然知っておくべき事項を取り上げる。一般的な知識を修得し、良き職業人を目指すという意欲をもって受講してほしい。									
回	授業計画				準備学修					
1	「現代の社会」導入(現代社会の誕生)				私たちを取り巻く現代社会について、その特徴を列挙し考察すること。(30分程度)					
2	現代社会の特質(特に生命科学と情報技術)				前回の講義内容(「現代の社会」導入)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
3	現代社会と人間の本質(特に自己形成)				前回の講義内容(現代社会の特質)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
4	日本国憲法の基本的性格(特に社会権・参政権)				前回の講義内容(現代社会と人間の本質)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
5	日本の政治機構と政治参加(特に地方自治と選挙制度・世論)				前回の講義内容(日本国憲法の基本的性格)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
6	現代の経済社会(特に財政と金融)				前回の講義内容(日本の政治機構と政治参加)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
7	少子高齢化(その原因と対策、社会保障の概要について)				前回の講義内容(現代の経済社会)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
8	消費者問題(消費者問題の歴史、消費者を保護するための制度について)				前回の講義内容(少子高齢化)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
9	労働問題(日本の労働事情や労働関係法規・制度、労働格差について)				前回の講義内容(消費者問題)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
10	国際社会と人類の課題(特に国際平和と日本の役割)				前回の講義内容(労働問題)を復習し、当日配付する確認テストに備えること。(1時間程度)					
教科書	「2020小論文頻出テーマ解説集 現代を知るplus」第一学習社									
参考文献	「別冊NHK 100分de名著 読書の学校 特別授業 君たちはどう生きるか」池上彰著(NHK出版(2017)) 各項目について報道している日刊新聞(購読していない場合は各社のweb版でも可。ただし不特定者によるまとめ記事はむしろ不可)									
備考	板書を中心に進める。 レポート作成を課し(含事後指導)、単位認定の授業内課題必須事項として成績に加える。 受講態度は、 確認テスト解答送信 で判断する。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●			●	●

科目ナンバリング
TB-3-ECO-12

科目名	旅と文学				単位認定者	成澤 広幸		評価の方法	試験(レポート)	45 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題	45 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	<p>本科目では旅と文学の接点に位置する紀行文学において、古代からいかに人々が未知の文化・文明・風土に関心を持ち、ときに時代や社会を批判し、また自らの心情を著者の心情を重ねて旅を追体験してきたかを学ぶ。また、どの紀行文もそれ自体独立して存在するものではなく、社会的、文化的、政治的、経済的、文学的など様々な状況に重層的にからめとられながら成立してきたという経緯についても理解を深める。</p>									
到達目標	<p>日欧の旅の記録や表現の多様性について、および、旅に関わる文学の発展が観光の発展に及ぼした影響について、時代状況や地域等をふまえて、自分の言葉で説明できるようになる。</p>									
学修者への期待等	<p>旅のもたらす新鮮な驚き、感動は個人にとって人間的な成長に貴重な糧となる。些細なものでもかまわないから、旅の喜び(そして苦しみ)を感じたことのある人なら、紀行文学からそういう感情を引き出し、共有することができるはず。他人の旅の感情を共有して追体験し、違う世界を理解することはきっと自分の人生を豊かにします。そういう体験をしてもらいたいと思います。</p>									
回	授業計画					準備学修				
1	紀行文学の定義：旅によって生み出された文学とはどのようなものかを考える					図書館、ネットなどで紀行文学について調べておいてください(1時間)				
2	紀行文学のコーパスを考える					図書館、ネットなどで紀行文学にはどのようなジャンルが含まれるか調べておいてください(1時間)				
3	日本の紀行文学史の概観(1)：古代から室町時代					事前の配布資料で日本の紀行文学史概略(古代から室町時代)を読んでおいて下さい(1時間)				
4	日本の紀行文学史の概観(2)江戸時代以降					事前の配布資料で日本の紀行文学史概略(江戸時代以降)を読んでおいて下さい(1時間)				
5	日本の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。(1)：古代					配布されたアンソロジーの該当部分(古代)を読んでおいてください(30分)				
6	日本の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。(2)：中世					配布されたアンソロジーの該当部分(中世)を読んでおいてください(30分)				
7	日本の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。(3)：近世					配布されたアンソロジーの該当部分(近世)を読んでおいてください(30分)				
8	西欧の紀行文学史の概観(1)：古代からルネサンスまで					事前の配布資料で西欧の紀行文学史概略(古代からルネサンス)を読んでおいて下さい(1時間)				
9	西欧の紀行文学史の概観(2)：17世紀以降					事前の配布資料で西欧の紀行文学史概略(近代)を読んでおいて下さい(1時間)				
10	西欧の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。(1)：古代					配布されたアンソロジーの該当部分(古代)を読んでおいてください(30分)				
11	西欧の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。(2)：中世					配布されたアンソロジーの該当部分(中世)を読んでおいてください(30分)				
12	西欧の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。(3)：ルネサンス					配布されたアンソロジーの該当部分(ルネサンス)を読んでおいてください(30分)				
13	西欧の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。(4)：17・18世紀					配布されたアンソロジーの該当部分(17世紀・18世紀)を読んでおいてください(30分)				
14	西欧の代表的な紀行文のアンソロジーを読みながら、時代性、著者、読者、移動性、他者の発見などについて考える。(5)：19・20世紀					配布されたアンソロジーの該当部分(19世紀から現代)を読んでおいてください(30分)				
15	現代における紀行文学の意義									
教科書	特に使用しない。アンソロジーについては授業中に配布予定。									
参考文献	授業中に指示する。									
備考	原則として事前にLMSに授業ファイルをアップロードするので、それを見ながら事前学修及び復習をしてください。LMSなどで課題の提出を行う予定です。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-19				
	●			●	●					
科目名	国内観光地理Ⅱ				単位認定者	佐藤 美輪		試験 (レポート)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		評価の方法	授業内課題
					授業形態		講義	授業回数		15 回
授業の概要	<p>本科目は、国内観光地理Ⅰの発展である。国内観光地理Ⅰで学んだ知識を活かし、旅行プランを自ら立てることで、理解を深める。更に、郷土料理や祭りなども取り上げ、現在の観光地が歴史とどのような関連があるかについても学ぶことで、一般常識の養成にも役立つ講義の内容を構成する。</p>									
到達目標	<p>「国内観光地理Ⅰ」で触れた観光地以外にも地域により郷土料理や祭り等多くの歴史が存在する。郷土料理や祭りを学ぶことで、地域文化の違いについて理解できるようになる。また、テキストの内容に留まらず、興味を持った観光地を自ら調べ、説明することができるようになる。</p>									
学修者への期待等	<p>講義による学修だけではなく、グループワーク等の実践演習を計画しているため、遅刻・欠席等が極力生じないように注意すること。また、足を運んだことが無い地域ほど、講義以外の時間でも自主学修をし理解を深めるように努力してほしい。</p>									
回	授業計画				準備学修					
1	日本の郷土料理・祭りについて				教科書等で郷土料理・祭りを読んでおく効果的です。(1時間程度)					
2	北海道地方の観光地・郷土料理・祭り				教科書等で北海道を読んでおく効果的です。(1時間程度)					
3	東北地方の観光地・郷土料理・祭り (青森・秋田・岩手)				教科書等で青森・秋田・岩手を読んでおく効果的です。(1時間程度)					
4	東北地方の観光地・郷土料理・祭り (山形・宮城・福島)				教科書等で山形・宮城・福島を読んでおく効果的です。(1時間程度)					
5	関東地方の観光地・郷土料理・祭り (新潟・群馬・栃木・茨城)				教科書等で新潟・群馬・栃木・茨城を読んでおく効果的です。(1時間程度)					
6	関東地方の観光地・郷土料理・祭り (埼玉・千葉・東京・神奈川)				教科書等で埼玉・千葉・東京・神奈川を読んでおく効果的です。(1時間程度)					
7	関東地方・中部地方の観光地・郷土料理・祭り (山梨・長野・静岡)				教科書等で山梨・長野・静岡を読んでおく効果的です。(1時間程度)					
8	中部地方の観光地・郷土料理・祭り (愛知・岐阜・富山)				教科書等で愛知・岐阜・富山を読んでおく効果的です。(1時間程度)					
9	中部地方・関西地方の観光地・郷土料理・祭り (石川・福井・滋賀)				教科書等で石川・福井・滋賀を読んでおく効果的です。(1時間程度)					
10	関西地方の観光地・郷土料理・祭り (京都・奈良)				教科書等で京都・奈良を読んでおく効果的です。(1時間程度)					
11	関西地方の観光地・郷土料理・祭り (三重・和歌山・大阪・兵庫)				教科書等で三重・和歌山・大阪・兵庫を読んでおく効果的です。(1時間程度)					
12	中国地方の観光地・郷土料理・祭り (鳥取・島根・岡山・広島・山口)				教科書等で鳥取・島根・岡山・広島・山口を読んでおく効果的です。(1時間程度)					
13	四国地方の観光地・郷土料理・祭り (香川・徳島・愛媛・高知)				教科書等で香川・徳島・愛媛・高知について読んでおく効果的です。(1時間程度)					
14	九州地方の観光地・郷土料理・祭り (福岡・佐賀・長崎・熊本)				教科書等で福岡・佐賀・長崎・熊本を読んでおく効果的です。(1時間程度)					
15	九州地方・沖縄の観光地・郷土料理・祭り (大分・宮崎・鹿児島・沖縄)				教科書等大分・宮崎・鹿児島・沖縄を読んでおく効果的です。(1時間程度)					
教科書	『国内観光地理サブノート』 株式会社JTB総合研究所 『国内観光資源 2019』 株式会社JTB総合研究所									
参考文献	必要に応じて紹介する。									
備考	<ul style="list-style-type: none"> 受講者の理解度により、講義順序や重点の置き方を変更することがある。 LMSにおいて毎回小テストを実施する。 									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-28				
		●	●	●						
科目名	おもてなし英語				単位認定者	吉野 千乃		試験(筆記)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	2 単位	評価の方法	ロールプレイ	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	日々の生活の中で外国の方々と接する機会が増している。本科目では、外国からのお客様に接するための英語表現を学ぶ。コンビニエンスストア、カフェ、レストランや販売店など、広く接遇の場面で活用できる英語力を身につける。実際の場面を想定したロールプレイングを取り入れ、それぞれの状況において必要な語彙や英語表現を修得する									
到達目標	日常的な接客の場面を想定し、顧客である外国人観光客に英語で対応できるようになる。日本の文化や習慣を再確認し、それらを英語で理解して説明できるようになる。									
学修者への期待等	授業では、店員と外国人客を互いに英語で演じるロールプレイを多く行う。積極的な姿勢で活動に取り組める学生の履修を期待する。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業の進めかたについて 「おもてなし英語」とは何か									
2	Unit 1 Ramen ペア・ワーク(会話練習)				事前にp.p.8-10.を予習し,日本食についてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する。(1時間程度)					
3	Unit 2 Animal Café ペア・ワーク (会話練習)				事前にp.p.12-14.を予習し,動物カフェについてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する。(1時間程度)					
4	Unit 3 Stand-up Eatery ペア・ワーク (会話練習)				事前にp.p.16-18を予習し,立ち飲み屋についてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する。(1時間程度)					
5	Unit 4 Convenience Store ペア・ワーク (会話練習)				事前にpp.20-22.を予習し,コンビニについてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する。(1時間程度)					
6	Unit 5 Japanese Fast Food, Gyudon ペア・ワーク (会話練習)				事前にp.p.24-25.を予習し,牛丼屋についてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する。(1時間程度)					
7	メディアを通して日本の「おもてなし」を考える				新聞,インターネットなどで日本の「おもてなし」を取り上げた英語の記事を探しておく。 (1時間程度)					
8	Unit 6 Japanese Spa ペア・ワーク (会話練習)				事前にp.p.28-31.を予習し,温泉についてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する。(1時間程度)					
9	Unit 7 Flour Dishes ペア・ワーク (会話練習)				事前にp.p.32-35.を予習し,粉ものについてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する。(1時間程度)					
10	Unit 8 Karaoke ペア・ワーク (会話練習)				事前にp.p.36-39.を予習し,カラオケについてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する。(1時間程度)					
11	Unit 9 Seating Charges at Japanese Restaurant ペア・ワーク (会話練習)				事前にp.p.40-43.を予習し,お通しについてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する。(1時間程度)					
12	Unit 10 Second-Hand Store ペア・ワーク (会話練習)				事前にp.p.44-47.を予習し,リサイクルショップについてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する。(1時間程度)					
13	Unit 11 Kawaii Culture ペア・ワーク (会話練習)				事前にp.p.48-51. を予習し,カワイイ文化についてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する。(1時間程度)					
14	Unit 12 Soba ペア・ワーク (会話練習)				事前にp.p.52-55.を予習し,日本そばについてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する。(1時間程度)					
15	Unit 13 Bento ペア・ワーク (会話練習)				事前にp.p.56-59.を予習し,弁当についてのUseful Words and Phrasesのリストを作成する。(1時間程度)					
教科書	坂部俊行,岡島徳昭,Howard Tarnoff.(2020). <i>Glances of Japan</i> . (『日本文化とおもてなし英語』) 南雲堂									
参考文献	随時紹介する。									
備考	授業にはテキスト,辞書を持参すること。履修者の状況により,進度に変更が生じる可能性がある。授業で使用した資料等はLMSに保存していくので,復習に活用すること。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要,実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-3-ECO-30				
		●	●		●					
科目名	観光英語ガイド基礎				単位認定者	吉野 千乃		試験(レポート)	60 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	選択	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	観光ビジネス学科の基礎科目・基幹科目で学んだ観光業に関する知識を活かし、地域の魅力を英語でガイドできるような英語力を身に付けることを目的とする。訪日外国人観光客の視点で考えるため、外国人からみた日本の文化等についても学ぶ。他者の視点を持つことで、地域の新たな魅力に気づくことになる。それらをわかりやすく伝えるための英語表現を学ぶ。									
到達目標	観光や観光英語に関する知識をさらに伸ばし、日本の代表的な観光地を訪れた外国人を英語で案内できるようになる。英語を通して、外国人にとって「異文化」である自国の文化をより深く理解できるようになる。									
学修者への期待等	観光分野の知識とともに、英語の技能を伸ばしたいと考える者、異文化理解に関心のある者、テキストの内容理解にとどまらず、積極的に英語を使用したいと考える者の履修を期待する。									
回	授業計画				準備学修					
1	授業の進め方について Lesson 1 An Attitude of Hospitality: Welcome to Japan!									
2	Lesson 2 Preparation for the 2020 Olympic Games in Tokyo				p.10 のオリンピックについての文章を読み、T/Fに回答しておく。(50分程度)					
3	Lesson 3 Do You Like to Watch Kabuki?				p.14の歌舞伎についての文章を読み、T/Fに回答しておく。(50分程度)					
4	Lesson 4 The Sapporo snow Festival				p.18の雪まつりについての文章を読み、T/Fに回答しておく。(50分程度)					
5	Lesson 5 Hiraizumi as the Buddhist Pure Land				p.22の平泉についての文章を読み、T/Fに回答しておく。(50分程度)					
6	Lesson 6 Yokohama Port				p.26の横浜についての文章を読み、T/Fに回答しておく。(50分程度)					
7	Lesson 7 Mt.Fuji				p.30の富士山についての文章を読み、T/Fに回答しておく。(50分程度)					
8	Lesson 8 Omi Province and Its Military History				p.34の近江地方についての文章を読み、T/Fに回答しておく。(50分程度)					
9	Lesson 9 The Deer in Nara				p.38の奈良についての文章を読み、T/Fに回答しておく。(50分程度)					
10	Lesson 10 Kyoto Station				p.42の京都についての文章を読み、T/Fに回答しておく。(50分程度)					
11	Lesson 11 Let's Explore Osaka				p.46の大阪についての文章を読み、T/Fに回答しておく。(50分程度)					
12	Lesson 12 Port City Kobe				p. 50の神戸についての文章を読み、T/Fに回答しておく。(50分程度)					
13	Lesson 13 Sand Dunes in Tottori				p.54の鳥取についての文章を読み、T/Fに回答しておく。(50分程度)					
14	Lesson 14 The Atomic Bomb Dome				p.58の広島についての文章を読み、T/Fに回答しておく。(50分程度)					
15	Lesson 15 Dazaifu				p.62の太宰府についての文章を読み、T/Fに回答しておく。(50分程度)					
教科書	木戸美幸,Carolyn Wright, 河原俊昭,徳地慎二 (2016) <i>Hospitality English</i> . (『おもてなしの観光英語』)三修社.									
参考文献	資料等はLMSより随時配信する。									
備考	授業にはテキスト、辞書を持参すること。 履修者の状況により、進度や順番に変更が生じる場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要,実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-06			
	●	●	●	●	●				
科目名	総合演習Ⅱ				単位認定者	小形 美樹		試験(レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	授業内課題等	30 %
					授業形態	演習	授業時間数	60 時間	受講態度
							授業回数	30 回	
授業の概要	<p>「基礎ゼミ」及び「総合演習Ⅰ」で学んだことを基に、自ら課題を発見し、解決する力を育成することを目的とする。</p> <p>観光の現場を訪れ、フィールドワークを行うことにより、本学科での学びを通して修得した専門的知識をさらに深化させ、将来観光ビジネス等の分野で活躍できるビジネス実務能力を身につける。</p>								
到達目標	<p>①観光ビジネス現場で活かせる「チームで働く力」の大切さを理解し協同作業ができるようになる。</p> <p>②文献などによる事前調査、課題設定、観光地調査、まとめと発表を行うことにより、課題発見力と問題解決力、プレゼンテーション力が発揮できるようになる。</p>								
学修者への期待等	<p>観光産業のみならず組織において働くために必要となるビジネス実務能力を身につけるためには、一つの課題を見つけ解決しようと努力することが必要である。そのため、本ゼミでは社会教育施設と修学旅行の関わりをテーマとして、前期には「修学旅行と社会教育施設」をテーマとしたグループでのフィールドワーク、後期には「修学旅行」のグループでの企画及び個人調査に取り組んでもらう。探求心や好奇心をもち、積極的に課題に取り組む学生の参加を希望する。</p>								
回	授業計画				準備学修				
1	自己紹介、ゼミ長選出、評価方法の説明、フィールドワークとは何か								
2	修学旅行とは何か、修学旅行と社会教育施設の関わり、調査の進め方とグループ分け								
3	フィールドワーク① 地底の森ミュージアム（歴史系博物館類似施設）と周辺地域の視察及び調査				地底の森ミュージアムと周辺地域の歴史や環境について調べておいてください。（1時間程度）				
4									
5	フィールドワーク② 東北歴史博物館（歴史系博物館）と周辺地域の視察及び調査				東北歴史博物館と周辺地域の歴史や環境について調べておいてください。（1時間程度）				
6									
7	フィールドワーク③ 仙台市科学館（理工系博物館）と周辺地域の視察及び調査				仙台市科学館について調べておいてください。（30分程度）				
8									
9	フィールドワーク④ 宮城県美術館（美術系博物館）と周辺地域の視察及び調査				宮城県美術館と周辺地域の歴史や環境について調べておいてください。（1時間程度）				
10									
11	フィールドワーク①～④の調査報告書の作成				調査先で得た情報を整理し、必要な文献を収集しておいてください。（2時間程度）				
12	フィールドワーク①～④の調査報告書の校正				報告書を完成させておいてください。（3時間程度）				
13	調査報告書をもとにした修学旅行企画の検討（グループワーク）								
14	文化観光（学外研修）劇団四季ミュージカル観賞				配布資料を読み（30分程度）、観賞してください。鑑賞後は復習としてレポート作成（2時間程度）を課します。				
15									

回	授業計画	準備学修
16	東北の観光地調査：事前学修（学外研修準備）	学外研修先について調べて授業に臨んでください。（1時間程度）
17	東北の観光地調査（学外研修）	
18		
19	修学旅行企画の作成（グループワーク）	プレゼン資料の作成に必要な情報が不足している場合は、さらに収集しておいてください。（1時間程度）
20	修学旅行企画の提案（プレゼンテーション）	発表の準備をしてきてください。（1時間程度）
21	修学旅行企画の振り返り	前回のプレゼンで指摘された部分の加筆修正に必要な情報を収集してきてください。（1時間程度）
22	フィールドワーク⑤ 宮城県内観光地等	前回の振り返りを踏まえ、修学旅行の訪問先に加えたい観光地等を検討しておいてください。（30分程度）
23		
24	個人研究の課題設定	
25	個人研究の進め方，研究報告書作成について	
26	個人研究報告書の作成	調査先で得た情報を整理し，必要な文献を収集しておいてください。（2時間程度）
27	個人研究報告書の校正	報告書を完成させておいてください。（3時間程度）
28	プレゼン資料の作成	プレゼン資料の作成に必要な情報が不足している場合は，さらに収集しておいてください。（1時間程度）
29	ゼミ内研究発表会（プレゼンテーション）	発表の準備をしてきてください。（1時間程度）
30	合同研究発表会（プレゼンテーション）	
教科書	使用しない。適宜レジュメ等を配布する。	
参考文献	授業中に適宜紹介する。	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・1年「大学生生活論」2年全ゼミ合同開講：14回目15回目 ・1年2年全ゼミ合同開講：17回目18回目 ・2年全ゼミ合同開講：16回目30回目 	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	TB-4-SEM-06			
	●	●	●	●	●				
科目名	総合演習Ⅱ				単位認定者	佐藤 美輪		試験(レポート)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	観光ビジネス学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	2 単位	授業内課題等	30 %
					授業形態	演習	授業時間数	60 時間	受講態度
							授業回数	30 回	
授業の概要	<p>「基礎ゼミ」及び「総合演習Ⅰ」で学んだことを基に、自ら課題を発見し、解決する力を育成することを目的とする。</p> <p>観光の現場を訪れ、フィールドワークを行うことにより、本学科での学びを通して修得した専門的知識をさらに深化させ、将来観光ビジネス等の分野で活躍できるビジネス実務能力を身につける。</p>								
到達目標	<p>①日本の観光地、特に東北の観光地に多く触れることで、自分の生まれ育った場所を深く知り、東北・宮城の良さを発信できるようになる。</p> <p>②グループワークを通しコミュニケーションスキルを身につけ、相手に自分の意見を伝えられるようになる。</p>								
学修者への期待等	探求心を持ち、フィールドワークや調査を行う学生の参加を希望する。また、グループ活動が中心となるため、主体的に取り組んでもらいたい。								
回	授業計画				準備学修				
1	自己紹介、ゼミ長選出、評価方法の説明、								
2	宮城の観光地の今を考えるⅠ フィールドワーク先の検討・選定				宮城の観光地について調べておいてください。(1時間程度)				
3	フィールドワークⅠ 宮城の観光地(JR・地下鉄沿線沿い)				フィールドワーク先の情報収集をしておいてください。(1時間程度)				
4									
5	フィールドワークⅠのまとめ 報告会の準備				フィールドワークで得た知識をまとめておいてください。(1時間程度)				
6									
7	フィールドワークⅠ ゼミ内報告会				発表できるよう報告内容をまとめておいてください。(1時間程度)				
8									
9	宮城の観光地の今を考えるⅡ フィールドワーク先の検討・選定				宮城の観光地について調べておいてください。(1時間程度)				
10	フィールドワークに向けての準備				フィールドワーク先の情報収集をしておいてください。(1時間程度)				
11									
12	フィールドワークⅡ 宮城の観光地(郊外)								
13									
14	文化観光(学外研修)劇団四季ミュージカル観賞				配布資料を読み(30分程度)、観賞してください。鑑賞後は復習としてレポート作成(2時間程度)を課します。				
15									

回	授業計画	準備学修
16	東北の観光地調査：事前学修（学外研修準備）	学外研修先について調べて授業に臨んでください。（1時間程度）
17	東北の観光地調査（学外研修）	
18		
19	郷土料理と歴史について	
20	地元の郷土料理の調査① 発表会準備	地元の郷土料理について調べておいてください。（1時間程度）
21	地元の郷土料理の調査② 発表会	発表の準備をしてきてください。（1時間程度）
22	郷土料理の調理法について学ぶ	
23		
24	宮城を観光地として考える①： ディスカッション 観光地としての強み	宮城の観光地を調べておいてください。（1時間程度）
25	宮城を観光地として考える②： フィールドワーク先の検討・選定・事前準備	宮城の観光地を調べておいてください。（1時間程度）
26	宮城を観光地として考える③： フィールドワーク	
27		
28	宮城を観光地として考える④： フィールドワーク調査報告書の作成	プレゼン資料の作成に必要な情報が不足している場合は、さらに収集しておいてください。（1時間程度）
29	宮城を観光地として考える⑤： ゼミ内調査結果報告会	発表の準備をしてきてください。（1時間程度）
30	合同研究発表会	
教科書	『2019国内観光資源』 株式会社 J T B 総合研究所	
参考文献	必要に応じて、授業において紹介する。	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・1年「大学生生活論」2年全ゼミ合同開講：14回目15回目 ・1年2年全ゼミ合同開講：17回目18回目 ・2年全ゼミ合同開講：16回目30回目 	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--